

大切

長岡市立栖吉中学校三年

水澤

友唯

私は毎日おいしいご飯を家で家族と、学

校では友達と一緒に食べている。何気ない時

間だが、幸せなことが思える。家族との食事

の中がたまにこんなところがある。

小学二年生の弟が、あまり食べないから

もお腹が痛いからと、

残りこをいっしょに食べてもいいから

と母に尋ねる。母は当然、

「残さずには食べなさいよ。」

と言う。それでも弟は淡い顔をして食べよう

としなさい。すると母は、

「世界にはご飯を食べられない子供がいっぱい、死

んでしまっているんだぞ。ご飯を食べられない

子どもは幸せな子どもなんだぞ。」

と言う。

確かにそうだと思う。私たちと同じ年齢

らしい、それより小さい子供たちであつても、

外国では働いていたり、十分な食事もとれない

かつたりしてゐる。日本ではおいしいジ飯を  
 食べられることが当たり前だ。でも、それ  
 が当たり前だ。はい、ここもあるのだ。おい  
 しいジ飯をお腹いっぱい食べることは  
 とても幸せなことだ。弟は母に言われたことを理解しながらも、  
 反抗できなかった。悔しいのか、むすとした  
 表情をした。そして、ジ飯を食べ始めた。  
 私も以前はジ飯を残すことがあった。今の  
 子うに世界のことまで考えられなかった。  
 学校に登校する前だと、時間がなくて食べ  
 れなかったりしたからだ。しかし、成長する  
 につれて私の食事に対する考え方は変わっ  
 ってきた。以前は残していてもいいやと思っ  
 ていたが、今は作ってくれた人にも失礼だ。ジ飯を  
 食べられずに苦しむ人がいるのも忘れな  
 けないうし、ジ飯を食べられることは幸  
 せなこと、と考える子うになつた。  
 日本では一日に一人あたりお茶碗一杯分  
 くらいの食品ロスがあるそうだが、食品  
 ロスがある。

食べられる状態があるにも関わらず、捨  
 られ、この食品のことが、私はこの事実を知  
 り、とても驚いた。まさか、こんなには多くの  
 食品ロスがあつた。知らなかつたからだ。  
 同じ地球には、ゴミ飯を食べることもできず、  
 飢えて死んでしまふ子供たちがたくさんいる  
 のに、日本ではゴミとされて処分されてしまふ  
 なんて、と考えたら悲しくなつた。私は、日  
 本で食品ロスになつてしまふ食品を、食品ロ  
 スになる前に、ゴミ飯がなくして苦しんでい  
 困つている人たちのためにできるなら届け  
 あげたいと思つた。  
 この食品ロスを減らす為にはどうすれば良  
 いのか。一番良いのはやはり、残飯をなくす  
 ことだろう。国民全員が食べ残しゼロにすれ  
 ば多くの食品ロスを減らすことができると思  
 う。また、調理において、食料の捨てしま  
 う部分を減らすべく減らしたり、意識するだけ  
 で食品ロスを減らすことが出来る。  
 食品ロスを減らす目的は、もつた、いない、と

いうだけではない。食品ロスを減らすこと、  
 処理する時に排出される二酸化炭素の量を減  
 らすことが、環境を守ることにつながる。  
 そういった意味でも食品ロスを減らすことは  
 とても大切である。  
 私の家族での話でも述べたように、食べ物  
 がなくて苦しんでいる子供たちが多くいるこ  
 とを忘れてはいけません。また、ごはんをお腹い  
 つぱい食べられるということは幸せなことだ  
 と、いうことも私には多くの人に知ってもら  
 いてほしい。

思う。そして、毎日のごはんを楽しく、おいし  
 く、残さずに食べてほしい。